

1. 教育の責任

国際化する地域社会で暮らす多様な人々の生活や価値観の違いを理解し、対象者のニーズに応じた健康支援と看護を実践できる看護職育成のための看護教育の一翼を担っている。

2. 教育の理念

地域社会で生活する人々に必要な看護支援の概念、在宅療養者とその家族に必要な看護について学習効果が高まるようにロールプレイを用いた演習を取り入れた教育を行っている。

3. 教育の方法

講義・演習・実習がつながる学習

- ・2年生の概論の講義では、地域社会で生活する人々に必要な看護支援の概念について教授する。
- ・3年生の援助論では、地域で展開されている看護の実際についてロールプレイを取り入れている。
- ・臨地実習では、座学での学びが臨床現場でどのように看護展開されているかを関連付けて考える学習を目指している。また、臨地実習では、日本で暮らす外国人の支援から、文化背景を考慮した多様な人々の生活や価値観の違いを考える学習を目指している。
- ・講義では、教科書の内容にとどまらず、社会の動向や法律の改正、在宅医療における課題を提示し、学生自ら関心を持ち、課題解決できるようにしている。
- ・看護研究Ⅱでは、先行研究の検索、リサーチエスジョンの設定、研究計画書の立案をグループディスカッションの形式をとりながら進め、論文作成をしている。

4. 教育の成果

- ・講義・演習・実習、それぞれの達成度はレポート、試験により行い、評価した。
- ・実習の最終カンファレンスでは、地地域社会で暮らす多様な人々の生活や価値観の違いを配慮した看護のあり方について多くの発言が見られた。

5. 改善への努力と今後の目標

学生が地域で働く看護職や在宅療養者をイメージできるよう、ゲストスピーカーや当事者の語りなどを授業に取入れ、さらなる教育効果を目指す必要がある。

【添付資料】